



高知医療センター 看護師募集ガイド



高知県・高知市病院企業団立高知医療センター看護局

〒781-8555 高知市池 2125 番地 1
TEL 088-837-6755 FAX 088-837-6766

<https://www2.khsc.or.jp/>

私たちの医療センター



病床数620床、救命救急センター・循環器病センター・地域医療センター・総合周産期母子医療センター・がんセンター・こころのサポートセンターの6つのセンター機能を活かした、高度・急性期医療を担う高知県の基幹病院です。

自治体病院として地域の病院や診療所と連携した地域完結型医療をめざしています。また、基幹災害医療センター機能として、DMATの派遣・災害訓練を実施しています。

統合情報システム（電子カルテ）を導入しており、チーム医療推進のための情報の共有化や医療の安全管理、患者さんへの診療情報の開示など、患者サービスと病院運営のために、そのメリットを最大限活用しています。

教育・研修病院として、医学生・看護学生・大学院生等の実習受け入れと地域の医療従事者を対象とした研修の開催、学術集会（センター内の多職種の取り組みを共有する場）を年1回開催しています。看護局では、地域の多様な施設で働く看護職と「看護をつなぐ」をテーマに、看護実践発表会を年1回開催しています。

*DMAT (Disaster Medical Assistance Team)



▲ゆったりした待合空間

理念

医療の主人公は患者さん

基本方針

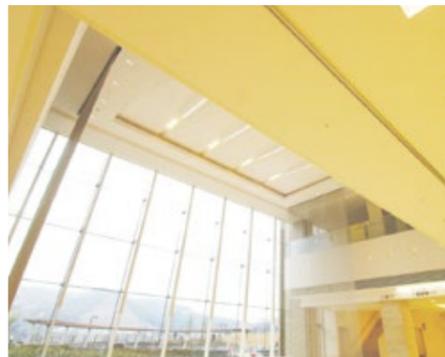
1. 患者さんから信頼され、温かい人間性に裏打ちされた夢と希望を提供する医療を実践します
2. 地域医療連携を基本とした良質で高度な医療を提供します
3. 自治体病院としての使命を果たします
4. 職員が誇りとやりがいを持ち、成長できる病院にします
5. 公正で開かれた病院運営と健全な経営を目指します

基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

安心と癒しの医療環境

▼光あふれるふれあいロビー



6つのセンター機能



救命救急センター



救命救急ICU

救急医療は「医の原点」の理念のもと、一次から三次救急に対応しています。急性・重症患者看護専門看護師、救急看護認定看護師4名が中心となり、フライトナースを育成しています。

救急車による来院患者数	4,953人/年
ドクターヘリ出動件数	599件/年
FMRC出動件数	115件/年

(2023年度データ)



ドクターヘリ
勇気の花号

早期医療対応緊急車両
(FMRC)



循環器病センター



アンギオ室

緊急カテーテル検査・治療にも対応し、早期治療・早期社会復帰に貢献しています。



心臓リハビリ室

循環器病センターでは心臓リハビリや生活指導を行い、社会復帰の促進を支援しています。



地域医療センター



地域医療連携室

医師・看護師・ソーシャルワーカーが院内外と連携をとり、地域完結型医療を推進しています。



まごころ窓口

まごころ窓口では、患者さんやご家族からのご意見を伺ったり、さまざまなご相談に対応しています。



総合周産期母子医療センター



新生児集中治療室

小さく生まれた赤ちゃんや障害のある赤ちゃんに対しては、地域の訪問看護師や保健師と連携し、子どもと家族を支えるケアを実践しています。



LDR

陣痛時から分娩まで、家族と一緒にすごせるお部屋です。

*LDR (Labor Delivery Recovery)



がんセンター



地域がん診療連携拠点病院に指定されています。外来・入院フロアで、化学療法、放射線療法、手術療法など、さまざまながん治療を受ける患者さんのいのちと暮らしを支える看護を目指しています。



こころのサポートセンター



精神疾患に加えて身体合併症をもつ成人患者さん、児童・思春期の患者さんの外来診療と入院治療を行うセンターです。こころと身体を看ることのできる看護を実践しています。



ハートに届く看護をめざして

12F	屋上ヘリポート	
11F	展望レストラン・職員食堂	
10F	あたたかフロア 消化器内科・腫瘍内科・整形外科、 総合診療科、血液内科・輸血科、結核、感染症科	
9F	おだやかフロア 循環器内科、心臓血管外科、 糖尿病・内分泌内科、総合診療科	
8F	さわやかフロア 整形外科、歯科口腔外科、消化器内科・腫瘍内科	
7F	のびやかフロア 呼吸器外科、呼吸器内科、血液内科・輸血科、 形成外科、皮膚科、眼科	
6F	にこやかフロア 耳鼻咽喉科、脳神経外科、救命救急科、 消化器内科・腫瘍内科、総合診療科、SCU	
5F	ほからかフロア 泌尿器科、移植外科、婦人科、消化器外科・一般外科、 腎臓内科・膠原病科、乳腺・甲状腺外科、産科	
4F	すこやかフロア 小児科、小児外科、産科、産科外来、 MFICU、NICU、GCU	
3F	救命救急センター ICU、HCU (CCU 含む)、中央手術、中央診療 外来フロア 消化器内科、ペインクリニック科	
2F	なごやかフロア 精神科、児童精神科 外来フロア 外来診察室、検査室、なるほどライブラリー	
1F	外来フロア 総合受付、総合案内、外来診察室、画像診断室、血液浄化、 注射・処置室、救命救急センター (外来)、患者支援センター	



- SCU ▶ Stroke Care Unit
- HCU ▶ High Care Unit
- ICU ▶ Intensive Care Unit
- CCU ▶ Coronary Care Unit
- MFICU ▶ Maternal Fetal Intensive Care Unit
- NICU ▶ Neonatal Intensive Care Unit
- GCU ▶ Growing Care Unit

がんサポートセンター

がん相談支援センター
緩和ケアセンター

外来ケアルーム

核医学検査

放射線治療

いつも
その中心に
いるのは
患者さん



多職種協働の治療場面

ボランティア
活動
ハーモニー
こうち



年間を通して、ボランティアの方に大切に育てられた花々が来院者の心を和ませてくれています。



小児入院フロア

小児入院フロアでは、保育士とともに、明るく楽しい環境づくり、遊びの場づくりを行い、治療に取り組む子どもと家族に癒しと勇気をもたらしています。



誰でも利用できる 「なるほど ライブラリー」

入院フロアでは、ボランティアさんによる巡回図書サービスが利用できます。



ふれあい ステーション

外来フロアのふれあいステーションでは、患者さんが安心して適切な医療を受けられるように、外来コンシェルジュが活動しています。受付や地域連携室と連携をとりながら、患者さんのご案内、相談、調整などを行っています。患者さんの「安心」と「満足」につながるよう人を思いやる気持ちに、おもてなしの心を添えて、日々活動しています。



チーム医療の中心を担うスペシャリストたち

専門看護師の6つの機能

相談

調整

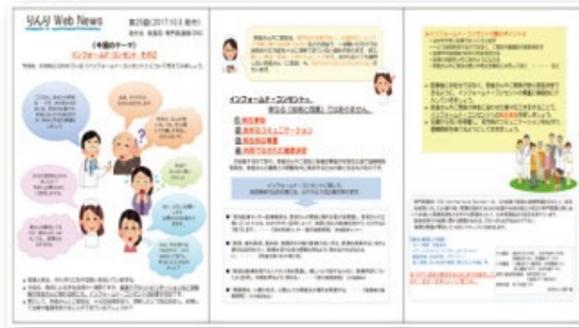
研究

教育

倫理調整

実践

倫理に関するweb Newsを年4回発行しています。



専門看護師、認定看護師ともに月に1回メンバーが集まり、それぞれの活動報告を行ったり、ディスカッションをすることで、専門性を高め、お互いに協働できる点を見出しています。

専門看護師・認定看護師は、日本看護協会が認定している資格です。

認定看護師の3つの機能

実践

相談

指導

専門性を発揮し、フライトナースとしても活躍しています！



救急搬送時の活動場面

救急看護認定看護師

救急看護とは、突然の病気が怪我に見舞われた患者さん・ご家族に対する看護であり、その活躍の場は、病院内はもちろん、ドクターヘリによる病院外や災害現場での看護も含まれます。院内では、重症の患者さんのケアや急変するリスクのある患者さんのアセスメントを行い、急変を予防するための活動(CCOT ラウンド)なども行っています。

慢性心不全看護認定看護師

慢性心不全患者さんが、自己管理能力を身につけ、QOLを保持した療養生活が送れるよう、患者教育や生活調整などを中心に支援を行っています。患者さんの生き方や思いを大切にしながら、病状や治療について一緒に考え、よりよい療養生活が送れるようにサポートをしています。

手術看護認定看護師

手術を受ける患者さんが、一人の人間として尊重され、安全な医療が受けられるように、患者さんの代弁者として倫理的な視点を養い、患者さんに寄り添った看護を目指しています。高度化する医療の中で、手術チームの各職種が専門性を最大限に発揮できるように調整役として活動しています。

不妊症看護認定看護師

不妊で悩んでいるカップルやご家族を対象に、検査や治療についての情報を提供したり、治療方法の選択にあたり、丁寧に関わり、意思決定を支援しています。認定看護師の立場から医師や看護師と意見を交換しながら、少しでも患者さんの力になれるように活動しています。

がん化学療法看護認定看護師

がん薬物療法を受ける患者さんやご家族が安心して治療を受け、セルフケア能力を身につけられるよう支援していきます。また、薬剤に応じた副作用管理や安全かつ適正に投与管理ができるよう看護スタッフのサポートを行っています。

がん看護専門看護師

手術・放射線療法・化学療法などさまざまな治療を受けながら、がんとともに生きる患者さんやご家族の心と身体に寄り添い、その人らしい暮らしをサポートできるように努めています。がん医療の多様化・専門化に対応し、より効果的なチーム医療が提供できるように調整機能を発揮し活動しています。

小児看護専門看護師

子どもの主体性を大切にしながら、成長・発達する力を発揮できるように、ご家族とともに「子どもにとって最も善いこと」を考えた看護ケアに努めています。退院後も自宅や学校、施設などにおいて、お子さんに合わせた看護ケアが受けられるように、多職種と協働し切れ目のない看護をめざしています。

慢性疾患看護専門看護師

慢性疾患をもつ患者さんや家族は、仕事や子育てなど多忙な生活の中に、病気を管理するための新たな習慣を身につけ、組み込んでいく必要があります。それは決して容易なことではなく病気を管理することに苛立ち苦悩することもあります。このような慢性疾患をもつ患者さんと家族が、自分なりの健康と生活を継続できるように最善の方法と一緒に考えサポートしています。

感染管理認定看護師

感染防止のためのシステムづくり、マニュアルの整備、院内の感染に関する問題把握と対策の見直しや提案、感染防止教育、院内環境の整備などを行っています。患者さんと職員を感染から守るために組織横断的に活動しています。

新生児集中ケア認定看護師

早産児や超低出生体重児などハイリスクな状態の新生児や、重篤な状態にある新生児の身体的ケアや親子関係を支えるケアを行っています。一人ひとりの新生児に適した、より良い看護がチームで実践できるよう活動しています。

皮膚・排泄ケア認定看護師

院内をラウンドしながら、予防的スキンケアに重点を置き、ケアの実施やスタッフへの指導・教育を行っています。また、ストーマ（人工肛門や人工膀胱）造設術の術前から術後の患者さんやご家族に対して、入院フロアや外来で相談や指導など継続ケアを行っています。

家族支援専門看護師

“家族”は一つの絆でつながりがあります。そのため患者さんの病状や入院は、家族に不安や混乱をもたらす出来事になります。患者さんの治療方針を考えたり、療養を支えようと懸命に取り組む家族の気持ちに寄り添い、不安や混乱を軽減し、家族の力が発揮できるよう働きかけています。

急性・重症患者看護専門看護師

急性期はもちろんのこと、回復期、慢性期、そして終末期から死に至る過程における急激な生命の危機状態にある患者さんやご家族を対象としています。常に患者さんやご家族の思いに寄り添い、タイムリーな看護が提供できるように努めています。

老人看護専門看護師

高齢者をひとりの人として捉え、生きてきた歴史、それによって培われた信念や価値観、生活習慣を理解し、身体的な変調を抱えながらも、安心して入院生活がおくれるよう支援しています。特に認知機能低下による混乱やせん妄症状を呈する患者さんに対する効果的なケアを多職種で協働して行えるよう努めています。

摂食・嚥下障害看護認定看護師

脳卒中や加齢などにより摂食・嚥下に関する機能に障害をもった患者さんに対し、多職種と協働し食形態の選択や食べ方、食べるために必要なリハビリ等の検討や実践を行っています。患者さんが安全に「食べる楽しみ」を持つことができるよう、看護を実践しています。

集中ケア認定看護師

危篤の状態にある患者さんやご家族に対し、的確な病態アセスメントをおこない、適切なケアによる二次的合併症の予防、早期回復を目指した看護を実践しています。患者さんを取り巻く全ての職種がチームとして、患者さんとご家族をサポートできるよう活動しています。

がん性疼痛看護認定看護師

がん患者さんの痛みからの開放を目指し、痛みの評価やがん性疼痛に用いる薬剤に関する知識、マッサージなどの技術指導を行っています。痛みの緩和を通して、がん患者さんやご家族の「がんとうき合い、その人らしく生きる」をサポートしています。

がん放射線療法看護認定看護師

がん放射線療法は、がん治療の一つで身体への負担が少なく、機能が温存できるという特徴があります。患者さんやご家族に寄り添い、安心してがん放射線療法を受けられるようサポートしています。放射線療法は毎日続けることが大切であり、疾患によっては2ヶ月以上治療が続きます。放射線療法の特性を踏まえ、患者さんの生活を大切にしながらその人に合った治療環境の整備や副作用への対応、治療意欲が継続できるよう援助しています。

乳がん看護認定看護師

乳がん患者さんは、他のがん比べて好発年齢が若く、容姿の問題や再発の不安、妊娠出産、社会復帰など悩みが多岐にわたります。乳がん看護認定看護師は、乳がん患者さんとそのご家族が納得した治療が受けられるように、また、乳がんに向き合えるようにサポートしています。乳がん患者さんに寄り添ったケアを大切にしながら、組織を横断的に活動し、乳がん患者さんを支えるチーム医療を推進しています。

日本精神科看護協会 / 精神科認定看護師

不安や抑うつ症状を持っている患者さんや精神疾患の治療をしている方に話を伺い、少しでも落ち着いて療養できるよう支援しています。療養環境を整え、不安や混乱を最小限にとどめることができるよう、フロアスタッフとより良いケアを考え、実践できるよう活動しています。

特定看護師

特定看護師

『特定行為』とは、専門的な研修を受けた看護師が、医師の指示のもと実施する診療補助行為です。特定行為を行う看護師を特定看護師といいます。特定看護師が特定行為を実施することで、患者さんの状態に迅速に対応することが可能となり、「治療」と「生活」の両面から患者さんを支えることを目指しています。2024年度現在、4名の特定看護師がチーム医療や看護・医療の質向上に向けて活動しています。

看護チーム活動

チームの要として
調整機能
リーダーシップを
発揮する看護師たち

チーム医療とは、医療に従事する多種多様なスタッフが、各々の高い専門性を前提に目的と情報を共有し、明確な役割分担の中で、他者に説明できる成果を生み出す責任を持つ組織的な取り組みです。チーム医療を推進するためには、各医療スタッフの専門性の向上と役割の拡大、医療スタッフ間の連携・補完の推進が必要になります。

KIDUKI 委員会

一般入院フロアで発生した急変対応事案の振り返りを行った、カンファレンスやシミュレーションの開催など、院内の急変対応能力の向上を目指した活動を行っています。また、院内迅速対応システム（RRS）の起動基準の周知やシステム全体の改善に取り組んでいます。



チーム楽楽

チーム楽楽は、紙屋克子氏が開発している「ナースングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術」を部署内や看護局全体に定着させることをめざすチームです。看護技術の中でも、体位変換・移乗技術の普及・啓発に努めています。患者さんにとって体位変換は自立につながる第一歩です。チームメンバーは、自身の技術向上を行い、新人看護師研修やOJTを通じてスタッフへの普及・啓発活動を行っています。



接遇マナー改善チーム

「患者さんに適切なサービスを提供することができる」「良好な人間関係を築くことができる」「職業人としてのマナーを身につけることができる」、この3つを目標とし、新人看護師や看護補助者を対象に研修を行っています。また、部署全体でロールプレイングを中心とした研修活動を支援しています。



コンチネンスケアチーム

コンチネンスケアチームは、NPO日本コンチネンス協会の排泄ケア専門員教育課程を修了したメンバーを中心に活動しています。各フロアの排泄に関するアセスメント力を高め、ケアの質を向上できるよう技術や知識を組み込んだ勉強会を行っています。

感染管理リンクナース会

感染管理リンクナースは、感染対策委員会や感染制御チームと部署スタッフをつなぐ重要な役割を担っています。そして、率先して自部署での感染防止対策の改善に取り組んでいます。また、毎月の会において院内外の感染管理情報や自部署の環境や手指衛生の現状を報告し、ミニ研修会なども実施しています。



緩和ケアチームリンクナース会

緩和ケアチームリンクナースは、各フロアにおける苦痛スクリーニングの実施や基本的緩和ケアの要として活動しています。また、専門的緩和ケアが必要な患者や家族により良い看護が提供できるよう、緩和ケアチームと所属フロアを繋ぐ役割も担っています。リンクナース会では、緩和ケアに関する知識や技術習得ほか、院内の緩和ケア体制の構築に向け話し合いを行っています。



摂食・嚥下チームリンクナース会

摂食・嚥下チームリンクナース会では、チームに所属する言語聴覚士・歯科衛生士等の各職種や摂食・嚥下障害看護認定看護師から、嚥下訓練や食形態に関するレクチャーを受けています。リンクナース会で学んだ内容をもとに、知識・技術を部署に広めたり、嚥下障害を持つ患者さんに必要な看護診断を行い、ケアが提供されているかを確認する等の活動を行っています。



褥瘡防止委員会リンクナース会

褥瘡防止委員会リンクナース会は、各部署のリンクナースと皮膚・排泄ケア認定看護師で構成されています。褥瘡やスキントラブルの発生予防、早期治癒に向けてのケアが実践できるように、知識・技術の向上に向けて取り組んでいます。



せん妄・認知症ケアリンクナース会

入院することによって環境が変化することや治療の影響により高齢者や認知症の方、手術を受けた方は意識の混乱を起こしやすくなっています。リンクナース会では、せん妄・認知症を理解するための研修や情報の共有を行い、リンクナースが各フロアで患者アセスメント・環境調整などの看護ケアをスタッフと共に実践する役割を担っています。



看護局の理念

看護は、いのちを産み、いのちを育み、いのちを守り、そしていのちを看取るという、人のいのちに寄り添う仕事です。

「いのちに寄り添い」には、こころを込めて、病と向き合い生きる患者さんのいのち、からだ、こころに寄り添い、その人らしいいのちの営みを支えたいという看護師の思い（こころざし）を込めています。

「こころをつなぐ」には、患者さんと看護師のこころのつながり、患者さんご家族や大切な人々とのこころのつながり、共に働く人と人とのこころのつながりを大事にしたいという願いを込めています。

「パートナーシップ」とは、お互いを尊重しあい、思いやりや共感から生まれる信頼の関係を意味します。看護師が出会うさまざまな人びととの関係は、お互いの価値を認め合い、尊重しあう関係でありたいと希う思いを込めています。

いのちに寄り添い、こころをつなぎ、一人ひとりの患者さんのより健やかで、より安寧ないのちの営みを願いながら、誠実に、看護師としての最善をつくしたいと思えます。

このような看護のこころを実現させるためには、いのちに寄り添うやさしさと強さが必要です。患者さんの痛みや不安や苦悩を和らげるための確かな知識と技術も必要です。そしてなによりも、看護師自身が心身の健やかさを保ち、いきいきと働き続けられることが必要です。看護という仕事に誇りを持ち、思いやることや世話をすることが社会の重要な価値になるように、看護をとらえて社会貢献に努めます。



いのちに寄り添い こころをつなぐ パートナーシップ

看護局の組織

- 看護師・助産師は、総勢で約700名です。
男性看護師は約70名。心優しく、患者さんに頼りにされる存在です。
看護師の平均年齢は約40歳となっています。
結婚、出産・育児、介護など、それぞれのライフサイクルに応じた多様な働き方を可能にする支援体制づくりをめざしています。
- 一般入院棟は7対1看護師配置、変則2交代制勤務（日勤・長日勤・夜勤）です。
- 看護提供方式は、パートナーシップナーシングと一部機能別を取り入れています。
- 看護師と看護補助者、ナイトサポーターが協働しながら患者さんのケアを行っています。

キャリア開発支援

専門職としての主体的な自己教育を支援するために、必須研修と選択研修の機会を提供しています。一人ひとりの看護師のキャリアプランに応じた支援を行うとともに、ライフサイクルに合わせた多様な働き方を支援するための教育体制を整えていきたいと考えています。

継続教育の 目 標

- 高度医療に対応できる知識・技術を修得し、看護師としての自律的な判断にもとづく看護実践ができる。
- 患者さんのいのちと尊厳を守るために、看護師として倫理的判断を行い、適切に行動することができる。
- 患者さんの最善のために、院内及び地域の多様な職種とのパートナーシップを培い協働することができる。
- より質の高い看護をめざした探求的な取り組みと新たな知見の活用に積極的に取り組むことができる。
- 援助専門職として心身の健やかさを維持し、自己研鑽を継続することができる。

継 続 教 育

- 継続教育プログラムと年間研修スケジュールが毎年4月に公表されます。
- 一人ひとりの看護師が看護教育研修システムにアクセスし、主体的に自己の教育計画を立案し、取り組めるように支援しています。
- キャリアパス、クリニカルラダーを活用して、看護実践能力、組織的役割遂行能力、自己教育研究能力の育成に向けて、一人ひとりを支援しています。
- 部署ごとの研修も活発に行われています。他部署の研修に参加することもできます。
- 多職種による研修会・事例検討会などにも自由に参加できます。
- 教育プログラムの一部を地域の多様な施設で働く看護師に公開しています。

新人看護師 研 修

- 実地指導者、教育担当が一人ひとりの新人看護師をサポートします。「新人看護師を育てることは、私たちの看護を育てること」を合言葉に、組織全体で、新人看護師を支援します。
- 集合教育と部署教育を組み合わせ、1年間の研修プログラムを組んでいます。
- 同期の仲間との体験の共有や同僚サポートを強めるために、年数回の振り返り研修を行っています。
- パートナーシップを培い、チーム医療を推進するために、多職種との合同研修、ボランティア体験研修なども行っています。
- 研修プログラムの一部を地域の多様な施設で働く新人看護師に公開しています。

専門看護師 認定看護師 等の資格 取得支援

- 大学院専門看護師教育課程への進学、認定看護師教育課程や看護師特定行為研修の受講は、看護局内の公募により研究休職制度等を活用しています。
- その他の資格取得についても支援しています。

新人看護師研修



- 新規採用者オリエンテーション
- 看護局の理念と組織
- 専門職としての倫理と実践
- 接遇1
- 医療安全1
- 感染管理
- コミュニケーション1
- 与薬技術1、2
- 口腔ケア
- 看護記録の基本(電子カルテ操作)
- スキンケア
- コンチネンスクア
- 見学研修1・外来部門
- 体位変換・ポジショニング
- 食事介助
- 他

- ストレスマネジメント1
- 与薬技術1
- 吸引
- 救急看護1(BLS)
- 見学研修2 救命救急センター・ICU・HCU・中央手術・中央診療・外来
- 経管栄養
- 看護記録の基本 クリニカルパス
- ◆リフレッシュ研修

- フィジカルアセスメント1
- シミュレーション研修・複数患者の観察
- 災害看護1
- 医療安全2
- ◆振り返り研修・3ヶ月の振り返りと目標設定・体調管理①

- 倫理1
- 看護必要度1
- ◆振り返り研修・看護師としての責任感・体調管理②
- ◆課題整理と今後の目標設定①

- 与薬技術3
- リーダーシップ1
- 高齢者ケア1

- 医療安全3
- ◆振り返り研修・6ヶ月評価と目標設定
- ◆リフレッシュ研修
- ◆課題整理と今後の目標設定②

安全で確かな技術習得のため、シミュレーターを活用し、筋肉注射や採血などの演習を行います。



自分の大事にしている看護観をグループで共有し発表しました。発表することで、自身の看護観を再認識することにつながりました。



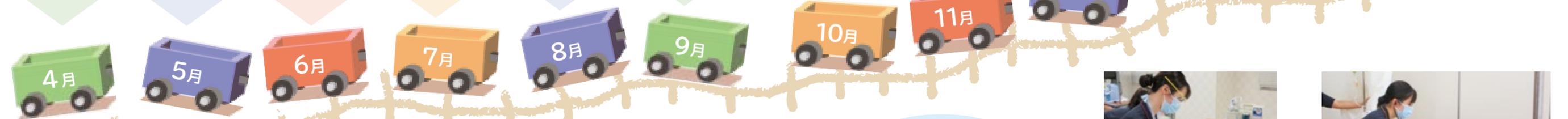
新人看護師研修修了証



実地指導者終了証



- ◆1年間の評価と課題整理、2年目の目標設定
- ◆修了証授与



部署責任者や指導者との交流



部署配属前に、配属部署の責任者や指導者から、部署の看護の特徴等を学び、交流をもつことで、職場適応の促進につながっています。

研修の講師は、副科長や実地指導者リーダー、専門看護師や認定看護師等が担っています。



救急看護研修



日常生活援助の技術習得にむけて、4～5月に口腔ケアやスキンケア、コンチネンス、食事介助、吸引など様々な研修を行います。写真は吸引の研修の様子です。



シミュレーション研修では、フィジカルアセスメント技術を活用し、複数患者の観察やアセスメントについて学んでいます。



電子カルテ操作研修



新人看護師1人に対して2人の実地指導者が担当しています。写真は患者さんの指示簿と一緒に確認している様子です。

歓迎会(部署配属の発表)



歓迎会では部署責任者や副科長が参加し、配属部署をお伝えしています。

・新型コロナ感染拡大に伴い、マスクを着用し、間隔を十分設けて研修を行っております。

福利厚生

- 福利厚生として、地方職員共済組合に加入し、結婚祝金、出産費、年金等の給付等が受けられます。
- 職員宿舎、病院敷地内に世帯用、単身用があります。

5階建て（単身用）・7階建て（世帯用）
専用面積 28.70㎡（単身用） 87.24㎡（世帯用A） 85.92㎡（世帯用B）
単身用宿舎はワンルームマンション式 （バス・トイレ・キッチン・クローゼット・バルコニー）
その他 エアコン完備・ガス給湯器・ガスコンロなど
専用の駐車場と駐輪場を設置



わくわくハウス

- 院内保育所 **わくわくハウス** は職員宿舎と隣接しています。

入所対象：0歳～5歳（就学前）までの乳幼児
定員：65人
※病児保育、夜間保育有り

サークル活動

- バドミントン同好会
- テニス部
- フルマラソン走ろう会
- フットサル部
- アンサンブル部
- 自転車部
- 釣り倶楽部 等



看護師・医師・薬剤師・医療技術職者・事務職などが参加するさまざまなサークル活動が行われています。他局の職員や異なるフロアの看護師と交流できる機会となっています。

募集のご案内

応募方法	令和8年4月1日付け採用については、令和7年4月下旬に募集案内をホームページ（ https://www2.khsc.or.jp/ ）に掲載しますのでご覧ください。その他の募集についても、随時、ホームページに掲載します。		
選考方法	小論文、面接、ほか		
給与	基本給：246,300円（短大卒）～256,000円（大学卒） 諸手当：通勤手当・住居手当・超過勤務手当・夜勤手当など		
昇給	年1回	賞与	年2回（6月、12月）
休日	4週8休		
休暇	年次有給休暇：初年度15日、次年度より20日、20日間次年度繰越可能 特別休暇：年末年始休暇、夏期休暇、産前産後休暇など		
子育て支援	院内保育所、育児休暇、育児短時間勤務制度など		
その他	病院敷地内に職員宿舎あり（世帯用・単身用） ユニフォーム・靴の貸与あり		

病院見学・インターンシップについて

- 病院見学会・インターンシップは、3月に実施しています。詳細は、ホームページをご覧ください。
- 病院見学やインターンシップについては、事前にご連絡をいただければ、随時、ご相談に応じます。

お問い合わせ先

ご不明な点は、お気軽にご相談ください。ご連絡をお待ちしています。

〒781-8555 高知市池2125-1
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 看護局
TEL 088-837-6755（直通）
FAX 088-837-6766
メールアドレス kango_1@khsc.or.jp

